

指導資料

郷土教育第4号



鹿児島県総合教育センター
平成28年10月発行

対象
校種

幼稚園

小学校

中学校

高等学校

特別支援学校

「明治維新と郷土の人々（概要）」を活用した 中学校社会科歴史的分野における授業展開

中学校第2学年に配布された補助教材「明治維新と郷土の人々（概要）」を活用し、「薩摩藩は明治維新にどのような役割を果たしたのか、薩摩藩が明治維新に大きな役割を果たすことができたのはなぜか」ということなどを考察させる歴史的分野の授業例を紹介する。

1 鹿児島県教育大綱と郷土教育の推進

平成27年(2015)12月、鹿児島県は教育大綱を定め、基本目標を「未来を拓く鹿児島の人づくり ふるさとを大切にし、世界へはばたく人材を育成する」とした(資料1)。

また、本県教育の取組における視点の(4)に「郷土の教育的な伝統や風土の活用」が掲げられており、「特に、平成30年には明治維新150周年を迎えることから、それに中心的役割を担った鹿児島の歴史や先人の遺業について、国内外を問わず改めて再認識されるような取組を推進」することが示されている。この取組に関連して『明治維新と郷土の人々』及び「明治維新と郷土の人々（概要）」が発行された(資料2)。

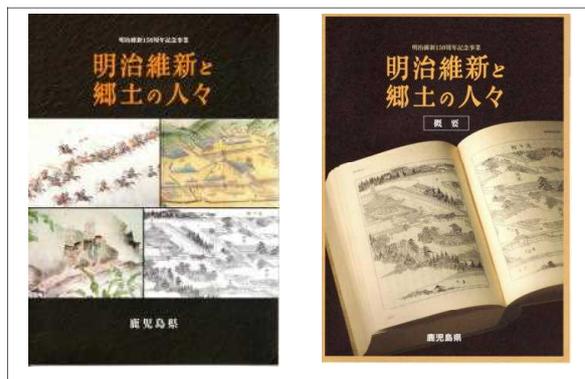
そこで、本教材を活用した歴史的分野の授業例を紹介し、学校教育(郷土教育)の立場から、本県教育大綱の基本目標に示されている人材育成に寄与したいと考える。

資料1 鹿児島県教育大綱

I 基本目標
未来を拓く鹿児島の人づくり ふるさとを大切に、世界へはばたく人材を育成する ～ ひとつは 鹿児島の教育
この基本目標には、一人一人の生命や個性の尊重を基本とした上で、今日のグローバル社会において、自分、家族、友人などを育ててくれたふるさと鹿児島を大切に、世界へはばたいていくという面的な広がりとともに、いかなる場面でもいかなる時であっても、確立した個性を遺憾なく発揮し、社会に貢献できる人材を育成するという意味合いを込めています。 鹿児島には、明治維新を成し遂げた多くの人材を輩出した歴史があります。 郷土の先人に学びつつ、我が国と郷土を愛する態度を養い、これからの新たな歴史を創り出す人材を育成したいと考えています。

(鹿児島県教育大綱p.3から引用 下線は筆者による)

資料2 『明治維新と郷土の人々』(左)と 「明治維新と郷土の人々(概要)」(右)



(鹿児島県知事公室政策調整課 作成)

2 歴史的分野の目標及び内容との関連

資料3に示すように、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して郷土教育を推進することは、中学校学習指導要領に示されている歴史的分野の目標に迫る重要な取組であると言える。

そこで、「明治維新と郷土の人々（概要）」に掲載されている資料を基に、幕末から明治初頭までの学習全体で、「薩摩藩は明治維新にどのような役割を果たしたのか、薩摩藩が明治維新に大きな役割を果たすことができたのはなぜか」ということを考察させる授業を構想する。

この授業は、中学校学習指導要領「内容」(5)近代の日本と世界のイ（資料4）に示された単元等で計画することができる。

中項目のねらいは、「明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したこと」を理解させることである。

一方、「明治維新と郷土の人々（概要）」は資料5に示すように4部構成になっている。これは、従来、明治維新は、西郷隆盛や大久保利通などの偉人を中心に語られることが多かったが、家老や郷土を含め、これまであまり知られていなかった人物も取り上げ、藩の組織や機能上の特徴にも着目したいという考え方によるものである。

編集者のこのような意図を踏まえながら、幕末～明治維新の学習において、活用が期待される「明治維新と郷土の人々（概要）」の資料を、教科書の単元構成を基に、資料6のように再構成した。

資料3 中学校学習指導要領 歴史的分野の目標

(4) 身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 p.36 から引用)

資料4 中学校学習指導要領 歴史的分野の内容

(5) 近代の日本と世界
イ 開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化などを通して、新政府による改革の特色を考えさせ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

(内容の取扱い)

開国とその影響	アの欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにすること。
富国強兵・殖産興業政策	この政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定などを取り扱うようにすること。
新政府による改革の特色	欧米諸国とのかかわりや社会の近代化など、それ以前の時代との違いに着目して考えさせるようにすること。
明治維新	複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるようにすること。

(中学校学習指導要領解説社会編 p.82 を基に作成)

資料5 「明治維新と郷土の人々（概要）」の構成

I 明治維新と武士	1 薩摩藩の学問 2 薩摩藩の組織体制と人材登用 3 薩摩藩のネットワーク
トピックス	○ 調所広郷による天保の改革 ○ 島津斉彬の集成館事業 ○ 西南戦争とその影響 ○ 明治期の人物
II 明治維新と市井の人々（庶民）	1 幕末期の庶民の暮らし 2 明治維新後の庶民の暮らし 3 奄美・琉球と商人
III 明治維新と女性	1 武家の女性 2 農村の女性 3 女性の教育
IV 明治維新と子ども	1 海外に目を向けた人材の育成 2 藩校での教育 3 郷中教育 4 明治維新前の庶民の教育 5 明治維新後の教育

資料6 幕末～明治維新の学習で活用できる資料

教科書（東書）の単元構成	「明治維新と郷土の人々（概要）」
開国と不平等条約	I 3 薩摩藩のネットワーク
尊王攘夷運動と開国の影響	IV 1 海外に目を向けた人材の育成
江戸幕府の滅亡	I 1 薩摩藩の学問
新政府の成立	I 2 薩摩藩の組織体制と人材登用 3 薩摩藩のネットワーク
明治維新の三大改革	III 3 女性の教育 IV 5 明治維新後の教育
富国強兵と文明開化	ト 島津斉彬の集成館事業
近代的な国際関係	III 3 女性の教育
国境と領土の画定	I 3 薩摩藩のネットワーク
自由民権運動の高まり	ト 西南戦争とその影響

※ ト は「トピックス」のこと

3 幕末～明治維新の授業構想例

薩摩藩が明治維新で果たした役割は多大なものがあり、一概には語り尽くせないが、「明治維新と郷土の人々（概要）」では、これを資料7に示す4点にまとめている。

このことを踏まえ、「江戸幕府の滅亡」において「I 明治維新と武士」に掲載されている資料を用いて「薩摩藩が明治維新にどのような役割を果たしたのか」ということを考えさせる1単位時間の授業を資料8のように構想した。なお、単元全体では、「薩摩藩が明治維新で活躍できたのはなぜか」という問いにも迫らせたい。

社会科においては、「課題を設定し追究する学習（課題解決的な学習）」を充実させることが重要である。この授業で生徒に解決させたいことは、資料7の③に見える「旧幕府勢力を除いた形で天皇中心の新国家を建設するため、薩長土肥を中心とする官軍が戊辰戦争で旧勢力を降し、国内を平定」した際の薩摩藩の役割についてである。

資料8に示すように、課題設定場面においては、生徒の関心・意欲を喚起させ、学習の動機付けを図る学習課題を設定した。

同様に、課題追究場面においては、どのような知識を習得させ、どのような資料を用いて資料活用の技能を習得させるか（どのような読み取りや解釈をさせるか）を構想した。この場面に「明治維新と郷土の人々（概要）」に掲載されている資料を用いた。

そして、習得した知識や技能を活用して学習課題の解決を図ることで、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図った。

資料7 薩摩藩が明治維新で果たした役割

①	日本の西南の端に位置し、早くから西洋列強の外圧にさらされた薩摩藩は、日本の独立を守るため、全国に先駆けて西洋式の製鉄、製砲、造船、紡績等に取り組み、産業の近代化を図りました（集成館事業）。
②	薩摩藩は、生麦事件や薩英戦争などを経験しながらも、朝廷と幕府の協力の下、日本を一つにまとめて外国の勢力に対抗しようとした。
③	しかし、15代将軍徳川慶喜は、大政奉還後も新しい政府内でこれまでどおり主導権を握ろうとしました。そこで、旧幕府勢力を除いた形で天皇中心の新国家を建設するため、薩長土肥を中心とする官軍は戊辰戦争で旧勢力を降し、国内を平定しました。
④	明治新政府は、政治・経済・社会など様々な改革を行い、近代日本の基礎を築いていきました。その過程においても、多くの薩摩藩出身者が様々な分野で重要な役割を果たしました。

（「明治維新と郷土の人々（概要）」p.2に掲載の資料から作成）

資料8 「明治維新と郷土の人々（概要）」を活用した授業例

課題追究のための学習活動	
課題設定	学習課題の設定による学習への関心・意欲の喚起 江戸幕府はどのようにして滅亡したのだろうか。また、この時、薩摩藩は、どのような役割を果たしたのだろうか。
	「知識」の習得 ○ 尊王攘夷運動の中心であった長州藩が、攘夷を実行したことの理解 ○ 四か国連合艦隊が下関を砲撃し砲台を占領したことで、長州藩が方針を転換したことの理解 ○ 生麦事件の報復のためイギリスに砲撃された薩摩藩が、薩英戦争後、イギリスに接近して軍備を強化したことの理解 ○ 薩長同盟が結ばれ、倒幕に動き始めると、将軍慶喜が大政奉還をしたことの理解 ○ 戊辰戦争で、薩長土肥を中心とする官軍が、旧幕府軍を降伏させ、国内を平定したことの理解 など
課題追究	「資料活用の技能」の習得 ○ ㊦「下関砲台の占領」の写真から、長州藩の攘夷実行と、その報復の意味について解釈する。 ○ ㊦「I-3 薩摩藩のネットワーク」の資料から生麦事件が偶発的に起こったこと、薩英戦争によって薩摩藩がイギリスの軍事力を知ったこと、その後イギリスに接近したことを読み取る。 ○ ㊦「戊辰戦争」の地図資料から、官軍が東北・北海道地方まで攻め、旧幕府軍を降伏させたことを読み取る。 ○ ㊦「I-2 薩摩藩の組織体制と人材登用」の資料から薩摩藩の人材登用の仕組みや組織体制が戊辰戦争の時に大きな力となったことを読み取る。
	習得した「知識・技能」を活用した「思考・判断」 ○ 薩摩藩や長州藩は、初めは欧米の力を低く見ていたが、実際に戦争をしたことによりその実力を知り、方針転換したのではないかと推察。 ○ 薩摩藩は天保の改革後、財政を強化し、集成館事業などで近代化を進めていたことが、明治維新を実行できたのではないかと推察。 ○ 薩摩藩では下級武士の登用も行われており、また、上級武士から郷土にいたるまで一つにまとまって行動できるようになっていたことで、明治維新に大きな役割を果たすことができたのではないかと推察。 など
課題解決	予想される生徒の「表現」例 欧米の軍事力を実感した薩摩藩や長州藩が、幕府勢力を排除しようとしたことにより、幕府は滅亡した。郷土の先人たちは上級武士から下級武士まで一丸となって国内を平定する役割を担った。

※ ㊦は教科書、㊦は「明治維新と郷土の人々（概要）」のこと

資料8の授業構想に基づいて実施する授業の板書計画例等を資料9に紹介する。

資料9 「江戸幕府の滅亡」の学習における板書計画例と「明治維新と郷土の人々（概要）」の活用例

【学習課題】 江戸幕府はどのようにして滅亡したのだろうか。また、この時、薩摩藩はどのような役割を果たしたのだろうか。

【予想】 薩摩藩が江戸幕府を倒した。

① 倒幕への動き

薩摩藩

- 偶発的に生麦事件が起こる(1862)
- 薩英戦争で鹿児島が火の海に(1863)
- ※ 西郷隆盛や大久保利通らが実権を握る。(イギリスに接近して軍備を強化⇒倒幕へ)

長州藩

- 関門海峡を通る外国船を砲撃(1863)
- 四か国連合が下関砲台を占領(1864)
- ※ 高杉晋作や木戸孝允らが実権を握る。(奇兵隊を中心に倒幕へ)

② 大政奉還と王政復古 一連の戦いを戊辰戦争という

幕府

- 「大政奉還」(1867)
- ※ 主導権は徳川家に

対立⇕

新政府

- 「王政復古の号令」
- ※ 主導権を新政府に

【まとめ】 欧米の軍実力を実感した薩摩藩や長州藩が、幕府勢力を排除しようとしたことにより、幕府は滅亡した。薩摩藩は上級武士から下級武士まで一丸となって国内を平定する役割を担った。

① 倒幕への動き

Q 幕末の薩摩藩は、西洋列強とどのように関わっていたのでしょうか？

- ・ 偶発的に起きた生麦事件
- ・ 西洋の実力を知った薩英戦争
- ・ 留学生の派遣やパリ万国博覧会への出席

② 大政奉還と王政復古

Q 西郷隆盛や大久保利通といった下級武士が、明治維新で活躍できたのはなぜでしょうか？

- ・ 人材登用
- ・ 組織体制
- ・ 家老の役割
- ・ 郷土の役割

4 教師による郷土史研究の奨め

「明治維新と郷土の人々（概要）」は、「薩摩藩が明治維新に大きな役割を果たすことができたのはなぜか、郷土の人々にとって明治維新とは何だったのか」ということなどを深く多面的・多角的に考察させるために作成された。

本稿では、その活用の一例を紹介したが、歴史的分野の考察の視点は資料10に示すように多様である。どのような考察の視点を生徒にもたせ、深い学びにつなぐかは、教師の腕の見せ所である。詳細については『明治維新と郷土の人々』を用いて教師自身が深い教材研究を行うことで、「明治維新と郷土の人々（概要）」の授業活用も一層期待できると考える。

資料10 歴史的分野の考察における視点の例

経過	歴史事象が、どのような時代背景の基で成立し、変化したかという「経過」についての考察
関連	歴史事象が、他のどのような歴史事象と「関連」するかということについての考察
機能	歴史事象が、現在のどのような「機能」につながるかということについての考察
構造	歴史事象が、どのような「構造」になっていたかということについての考察
意味	歴史事象が、現代社会においてどのような「意味」をもつかということについての考察
意義	歴史事象が、歴史過程においてどのような「意義」があるかということについての考察

(当センター指導資料 社会 第121号 p.3 を基に作成)

- ※ 課題を設定し追究する学習の充実については、当センター指導資料 社会 第121号、126号、127号 を参照
- ※ 板書計画とノート指導の充実については、当センター指導資料 社会 第124号 を参照
- ※ 中学校社会科歴史的分野における郷土教育の充実については、当センター指導資料 社会 第128号 を参照

－引用・参考文献－

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』平成20年、日本文教出版
- 鹿児島県知事公室政策調整課『明治維新と郷土の人々』平成28年
- 鹿児島県知事公室政策調整課「明治維新と郷土の人々（概要）」平成28年

(教科教育研修課)

- 4 -